



龍谷ミュージアム開館にあたって

みやじ あきら
宮治 昭

龍谷ミュージアムは、堀川通をはさんで西本願寺の向い側に建設され、今年 4 月 5 日に開館を迎えます。龍谷大学の創立 370 周年記念事業の一環として開設され、運営は龍谷大学が行いますが、西本願寺より土地の無償貸与や助成金など多大なご支援をいただいております。西本願寺の「親鸞聖人 750 回大遠忌宗門長期振興計画」の推進事項である「文化財の保護と活用」にも寄与する施設です。

はじめに龍谷ミュージアムの建物・施設と内容・性格についてご紹介し、親鸞聖人 750 回大遠忌法要をお迎えするにあたり、門前町活性化の視点からミュージアムの意義について述べたいと思います。

龍谷ミュージアムは敷地面積が約 1,700 m²で、地下 1 階、地上 3 階建ての建物です。1 階はガラス張りで明るく、外から入りやすい解放感があります。カフェ・ショップも 1 階にあり、どなたでもご利用できます。また、ミュージアムの開館時には、館を通り抜けて堀川通と油小路通を行き来することができます。外観は周囲の景観と融和するようにデザインし、堀川通側にはセラミックルーバーによる^{すだれ}簾を外壁に設け、京都らしさを演出しました。ミュージアムの延床面積は約 4,400 m²で、展示室面積は約 1,000 m²あります。これは全国の私立大学の博物館の中でもトップクラスの規模を誇ります。

龍谷ミュージアムは仏教総合博物館としての特徴をそなえています。展示室は 2 階と 3 階にあり、それぞれ 500 m²ほどの広さで、2 階では「アジアの仏教」、3 階では「日本の仏教」を基本テーマにし、インドで誕生した仏教がアジアに広まる様子と、日本での展開の様子をわかりやすく紹介します。

とりわけ今年 4 月のオープンから一年間は、開館記念並びに親鸞聖人 750 回大遠忌法要記念として、「釈尊と親鸞」のテーマのもと、ご門徒の皆様にも親しんでいただける展示を考えています。一年間を大きく前期・後期に分け、さらにそれぞれ三期ずつ、計六期に分けて展示替えをしますので、一度だけでなく幾度も足をお運びいただけます（ただし、休館日がありますのでご注意ください）。

インドで釈尊が始められた仏教は、中央アジアに伝播し、中国・韓国を経て日本に伝来しました。第一部(2階)では、そのルーツとなる釈尊の生涯と教え、アジアでの展開を展示します。特に第二十二代きょうによしゅうしゅ鏡如おおたにこうずい宗主(大谷光瑞)が率いた大谷探検隊の収集した文物を基にして、ガンダーラ・中央アジアの仏教の展示に力を入れます。2階のコーナーには、西域トルファンのベゼリク石窟にかつて描かれていたごくさいしき極彩色の壁画をデジタル画像で原寸大に復元し、当時の西域仏教の様子を体感していただけます。これは理工学部と文学部の先生方の協力のもとに完成した龍谷大学ならではの成果です。

第二部(3階)では日本への仏教伝来から近現代に至る展開を、親鸞聖人と真宗の発展を軸に展示します。大遠忌法要に合わせて、改めて親鸞聖人の生涯をしのび、その教えと歴史を親しみやすくご理解いただけるよう、かつ感銘深いものとなるよう、実物展示に力を注ぎます。そのために本山をはじめとして、全国の関連寺院のご協力を得、貴重な法宝物を借用し展示します。3階には超高精細の映像が楽しめる、50席ほどのシアターを設置し、「伝えゆくもの 西本願寺の障壁画」「ベゼリク石窟寺院」の映像作品をご覧いただけるよう準備を進めています。

また、龍谷ミュージアムは街に開かれた博物館を目ざしており、建物と景観の融和はもとより、1階に多目的室を設けて、市民講座の開催や歴史ある近隣地域の文化や歴史などを紹介し、地域の活性化に役立ちたいと願っています。多目的室は地域住民の方々にもお使いいただいて、地域とともに発展するミュージアムにしたいと考えています。

親鸞聖人 750 回大遠忌法要で全国から多数のご門徒の方々が本山に参拝に来られ、また龍谷ミュージアムを見学されることで、この地域は大変な賑わいを見せることと思います。多くの方々が龍谷ミュージアムに見学に来られることは、大変有難いことですが、あまりに多くの方々が来られて混雑し、ゆっくりご覧になれないのではという心配に対する対策、さらに混雑によって事故等起きないように万全の対策を考えています。

そして、この地域の賑わいと街の活性化が一年限りで終わらぬよう、ご門徒の方々が参拝の折に気軽にご来館いただけるよう、次年度以降も魅力ある展覧会を開催すべく、すでに計画を練ねっております。2012年度以降は春・秋の特別展や企画展、それ以外の期間にも常設展に力を入れ、ご来館になれば仏教の全体や特定のテーマがわかりやすく、興味深く、「知る・見る・感じる」ことができる龍谷ミュージアムになるよう努力していきます。その努力が街の活性化に

^{つな}繋がるものと思っています。

(龍谷ミュージアム館長)